

平成 29 年度計画の自己点検・評価（中間）の確認結果について

平成 30 年 1 月 9 日

大学評価専門委員会

「第 3 期中期目標期間における内部質保証の実現に向けた自己点検・評価に関する基本方針」に基づき、年度計画の実施状況を把握し、適切な次年度計画の策定に資するため、平成 29 年度計画の各実施主体（理事・関係委員会・事務局等）は年度途中（12 月 1 日現在）における自己点検・評価を行った。

これを踏まえ、大学評価専門委員会では、主に中期目標・中期計画の達成に向けた観点から、各実施主体が行った自己点検・評価の内容について確認を行った。

1. 全体的な状況について

全ての年度計画について、年度末までの予定を見込んだ上で、「年度計画を十分に実施している」または「年度計画を上回って実施している」との自己点検・評価がなされており、全体としては順調に進捗していることを確認した。

また、今年度は年度評価スケジュールの見直しを行い、自己点検・評価（中間）の実施基準日を後ろ倒ししたことにより、昨年度よりも進捗した取組が増えており、また、多くの年度計画で課題（長所）の把握及び改善（伸長）に向けた取組が行われていることから、以前より内部質保証の実現につながる自己点検・評価が実施されている。

しかしながら、一部の年度計画においては、記載内容や根拠資料が不十分であったり、課題や長所の整理方法に改善の余地があったりするものも見受けられた。これらの計画に対しては、下記の共通したコメントで指摘している。これらを踏まえ、引き続き、記載内容の工夫や、課題や長所を把握し改善や伸長に繋げていくことが必要である。

【共通コメント】

○記載内容について

「自己点検・評価の記載内容は、国立大学法人評価委員会へ毎年度提出する「業務実績報告書」の原案となることを踏まえ、第三者にとってもわかりやすく正確に理解できるよう工夫してください。

（例）計画時に設定した「成果指標」毎に取組の実施状況を記載する、
計画のどの項目（内容）に対応する記述なのかを明確に記載する、等

○課題の記載がない場合

「年度評価を通じた内部質保証の仕組みが実質的に機能していることを示すために、中期計画の達成の観点も踏まえて、継続的に検証を行ってください。」

○長所の記載がない場合

「中期計画の達成の観点も踏まえて、長所であることを示せるような取組みがないか検証を行ってください。」

2. 達成時期（年度）が示されている中期計画について

伊都キャンパス移転や、共創学部の設置など、第 3 期中期目標期間中に達成時期が示されている中期計画については、当該年度までに中期計画の達成または一定の成果をあげておく必要がある。特に以下の中期計画に関しては、成果指標に掲げる取組を着実に実施し、成果を示すための根拠資料・データを確実に収集、蓄積しておく必要がある。

○達成時期が平成 30 年度と示されている中期計画

- ・「骨太のリーダー育成」のための国際的な教育プログラムの開発・実施（中計 3 番）
- ・大学教員を目指す学生のための教員養成プログラムの開発・実施（中計 5 番）
- ・新学部の設置（中計 6 番）
- ・海外拠点の機能の明確化や今後の整備計画（中計 21 番）
- ・伊都キャンパス移転の第Ⅲステージ整備の完了（中計 49 番）

3. 自己点検・評価結果の次年度計画への反映について

今回の自己点検・評価（中間）で指摘されたコメントや、整理した課題・長所（改善すべき点や伸長すべき点）については、次年度計画の策定や、今後の取組に反映させることにより、引き続き「内部質保証の実現」を図ることが重要である。